

地域密着ライフスタイル総合(創造)企業として 「地域共創」の取組みを 深化させていきます



私たちを取り巻くライフスタイルや地域社会が大きな変化を見せる中、平和堂が取り組む「地域共創」に込めた想いを語ります。

PROFILE

株式会社平和堂 代表取締役社長兼COO 営業統括本部長

平松 正嗣 ひらまつ まさし 1957年11月19日 生まれ

1981年4月 ソニー(株)入社
1997年7月 (株)スクウェア(現:株)スクウェア・エニックス)入社
2010年1月 (株)平和堂入社顧問
2010年5月 当社常務取締役社長補佐兼経営企画部管掌
2011年2月 当社常務取締役経営企画本部長
2012年2月 当社常務取締役店舗営業本部長
2013年2月 当社常務取締役営業統括本部長
2015年5月 当社専務取締役営業統括本部長
2017年5月 当社代表取締役社長兼COO兼営業統括本部長

平和堂に人が集う
「コミュニティ」の場を創造したい

平和堂の活動基盤は、平和堂グループ憲章にもある「お客様と地域社会に貢献し続ける企業」であることです。現在、人口減少や少子高齢化に象徴される様々な地域の課題がありますが、その課題に対して、「地域共創」を掲げ、地域の持続的な成長に貢献していくための様々な取組みを行ってまいりました。

この「地域共創」という言葉には、地域の皆様と一緒に地域経済を活性化し、明るく元気で、健康的な地域を創っていきたいという想いを込めています。そのためには、コミュニティの活性化が重要だと考えています。店舗でお買い物をしていただくだけでなく、地域の皆様が、常に来店したくなる場づくりや、参加したくなる各種イベントの開催などを推進しています。

世界一の高齢国である日本は、今後、ヘルスケア領域の課題が急増してくることが予想されます。これからの店舗は来店者の健康チェック機能や、健康的な食材・レシピの提案が必要です。それに加え、店舗の中心に交流ゾーンを設けるなどして、「コミュニティプラザ機能」を高め、地域の皆様の生活に楽しみが生まれ、健康寿命の延伸にも貢献できるようになればと考えています。



▲多目的スペース
(平和堂坂本店)



コミュニティとしての
場を創出
(フレンドマート交野店)

地域の持続的な発展に
多方面から貢献する

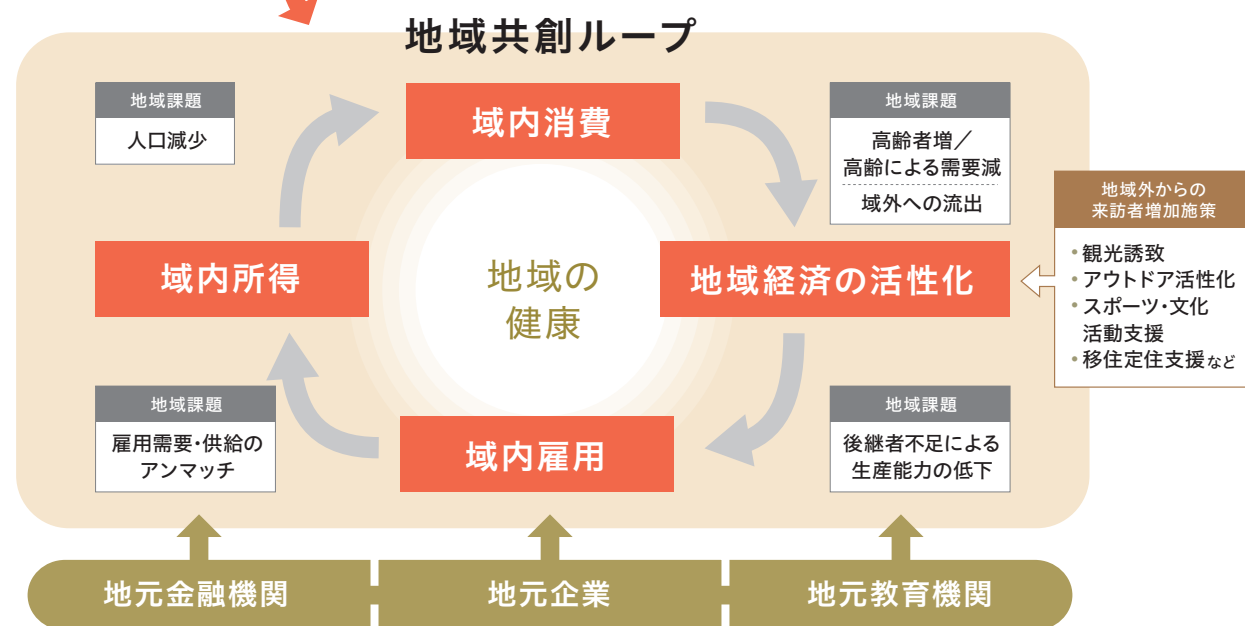
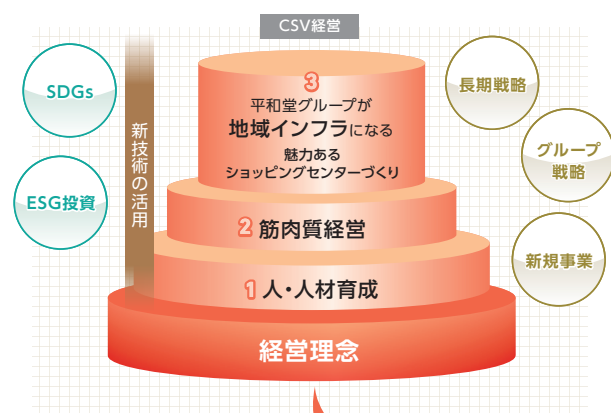
事業を通じた「地域共創」の取組みとして、地域の農作物や特産品の特長を生かし、“加工”することで平和堂でしか手に入らないオリジナル商品として販売をしています。例えば、滋賀県の一部の地域で青果売場の店頭を飾る、人気の彦根梨やモリヤマメロン。この人気の果物を平和堂ストアブランド「E-WA!」のチューハイとして加工販売し、大変ご好評をいただいています(詳しくはP16を参照)。しかし、これからは生産者の担い手不足により地域の農業の存続自体が危ぶまれてきます。地域経済の基盤である農業の継続、そしてその結果、安定的商品供給、運搬距離の短縮によるCO₂削減にも繋がる取組みとして、平和堂では、地域農業と連携しながら、持続的な農業支援を検討し、地域の健康を考えてまいります。

また、2018年3月に滋賀県内全店舗をビワイチの「サイクル・サポートステーション」(詳しくはP35を参照)として登録しましたが、サイクルラック、自転車の修理工具の設置だけでなく、店舗内で地域の観光、特産品の紹介をするなど店舗独自の取組みも始められています。

一方、世界的な課題となっている廃プラスチック問題や食品ロス問題に対して、社内に委員会を立ち上げ検討を進めています。平和堂は古くからレジ袋の削減に取り組んできましたが、人々の価値観も「モノを消費する」ことから、「モノを大切にしよう」とする傾向へと変化が見られるようになりました。より長く使っていただけるもの、直して使っていただけるものといった「循環型社会」を意識した品揃え、サービスを推進してまいります。

■長期ビジョン達成に向けての戦略イメージ

平和堂ならではの
地域密着ライフスタイル総合(創造)企業



「地域共創」のためには、地域全体をもっと知ることが大切

地域密着ライフスタイル総合(創造)企業としての取組みも、様々な広がりを見せています。例えば、滋賀県長浜市が世界に誇る文化遺産「長浜曳山まつり」を次世代に継承していくために、アル・プラザ長浜では、「子ども歌舞伎」の上演やパネル展示を行い、その魅力を発信するお手伝いをしました。また、フレンドマート日野店が主体となり、日野町の特産品の魅力を伝えるイベント「日野菜フェス」を、地域の「氏郷まつり」との共同開催として企画しました。クラウドファンディングを利用し、多くの皆様から賛同をいただきました。持続可能な支援を考えた時、これからの地方創生には様々なアイデアが求められると思います。



▲日野菜フェスを企画・開催(フレンドマート日野店)



▲曳山まつりのパネル展示(アル・プラザ長浜)

このような取組みを進めるため、地域においてどのような変化が起きているのかを理解することが大切だと考えています。そのため店舗の管理を店舗規模に関係なく、エリアで考える「エリアマネジメント制」に変更しました。ライフスタイル、地域活動といった様々な地域情報を共有することで、より地域のお客様に喜ばれる店舗づくりを推進していきます。

お客様に向き合い、
地域にとってなくてはならない存在に

「エリアマネジメント制」は、地域のことを知るだけでなく、店舗オペレーションの向上も期待できます。ドミナントエリア※1内の店舗同士で店休日や営業時間をカバーし合うなど地域内での連携を高めることで、

※1 ドミナントエリア
商圏が重なる店舗を一つにまとめた地域のこと。

お客様にとっても社員にとっても有益な店舗運営が可能となります。

また、お客様により充実したライフスタイルを提案するために、衣料品、住居関連品について事業統合し、生活全般を見据えたコンセプトに基づいた品揃えと店づくり(売場づくり)に取り組んでいます。

「地域共創」の実現には、平和堂で働く一人ひとりの成長が必要不可欠です。そのために、「風通しの良い職場」を目指し、社内SNSのさらなる活性化、ICTやAIの活用による業務改革を推進し、社員同士のコミュニケーションやお客様に向き合う時間を少しでも増やしていきたいと考えています。

これまででないスピードで変化する時代の中で、お客様、そして地域に対して、これまで以上に真摯に向き合い、「平和堂がお役に立てることは何か?」を常に考え、平和堂グループが一丸となって取組みを推進してまいります。

